

平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	有機・無機相互作用解析によるバイオミネラル化の制御機構の解明	研究代表者名	長沢 寛道
-------	--------------------------------	--------	-------

該当箇所( )に 等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア( ) 高い
- イ( ) やや高い
- ウ( ) やや低い
- エ( ) 低い

意見：  
バイオミネラル化の研究は重要である。これまで地道に努力し、着実に新しい成果をあげている。引き続き、焦点を絞りつつ、研究を推進すべきである。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア( ) 予定以上に進展している
- イ( ) 概ね予定どおり進展している
- ウ( ) やや遅れている
- エ( ) 遅れている

意見：  
全般的に計画通りに研究は進展しており、着実に新しい有機基質分子が同定されている。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア( ) 研究経費
- イ( ) 設 備
- ウ( ) 組 織
- エ( ) そ の 他

意見：

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア( ) 期待以上の成果をあげている
- イ( ) 概ね期待された成果をあげている
- ウ( ) 期待された成果をあげつつある
- エ( ) 期待された成果はあがっていない

意見：  
広いバイオミネラル化研究の中で、カルシウムに焦点を定め、多数の有機基質分子を同定し、概ね期待した成果をあげている。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア ( ) 有機的に連携が保たれている
- イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ ( ) その他

意見：  
有機基質分子の解析と結晶構造解析のエキスパートにより組織された本プロジェクトは、有効に機能し連携が保たれている。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア ( ) 効率的・効果的に使用されている
- イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ ( ) その他

意見：

#### 6 研究課題の総合的な評価

該当欄	評価結果
A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

カルシウムに目標を絞ったバイオミネラルゼーション研究に関して、計画通りの成果があげられつつあり、世界的にみてもユニークな研究が展開されている。今後、新しいタンパク質や糖タンパク質を発見し、国際的に認知される成果をあげられることを期待する。また、残りの研究期間では研究目標をより絞り込み、学術創成研究として相応しい独創的成果を生み出すことを期待する。